



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

# しらこぼと

## 2016.7

No.387

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



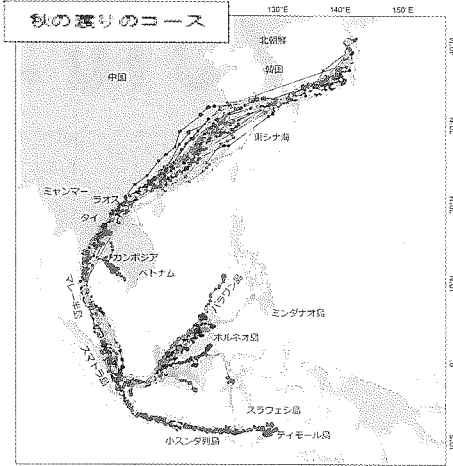
# タカの渡り

## 県内のルートは？

鈴木 秀治(ふじみ野市)

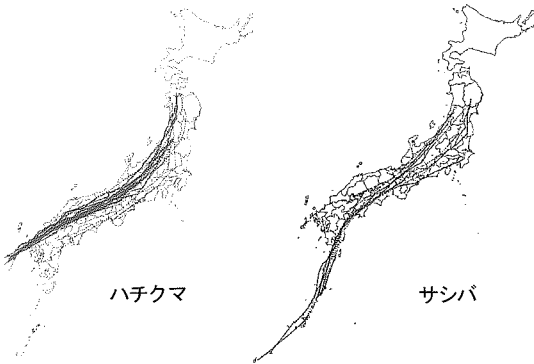
「タカの渡り」と聞いただけでバードウォッチャーは熱くなります。今月号は、その埼玉県内の「渡りの日」や「渡りのコース」を独自に研究されている会員に、執筆をお願いしました。

慶應義塾大学のハチクマプロジェクトは、機器を取り付けたハチクマの衛星追跡を2003年～2012年にかけて行っています。



(樋口広芳 2016年『鳥ってすごい!』山と溪谷社)

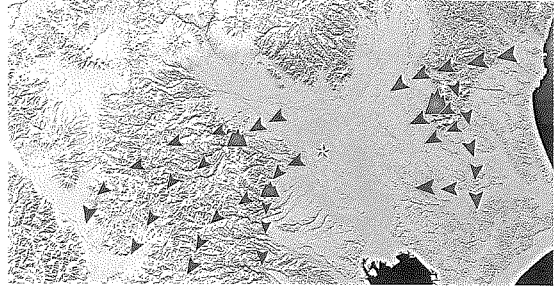
国内のハチクマやサシバのルートは、環境省に資料があります。



平 23 「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」より

### ● 県内のどこを飛ぶのか？

**飛来方向**：サシバについていえば、茨城県側は筑波山方面から南西に渡るコースと、牛久沼、千葉県印旛沼方面から西に渡るコースがあるとされています。



(国土地理院地図を加工)

**飛去方向**：天覧山へ坂戸方面から入り、①南西へ向かい奥多摩を越え、大月あたりから富士山西側を通るコースと、②南へ向かい丹沢を抜け、富士山南側を通るコースが推定されます。

中間平を館林・深谷方面から入り、南西へ向かい、甲武信ヶ岳を越えて甲州入りし、富士山西側を通るコースも推定されます。

(参考：2013, 7, 13「サシバ・ハチクマ等タカの渡り勉強会」八王子・日野カワセミ会主催)

### ● 県内の中央部は何処を渡るのか？

環境省資料「秋の渡り時にタカ類の出現頻度が高い地域」の本県部分は、落雷の多発地域や降雷や突風あるいは竜巻の発生地域と符合するのではないか、と感じました。

県央北西部は、花園付近・行田市・北本市・三芳町付近・飯能市が落雷頻度の高い所です。

県東側では、牛久沼西側付近。

(NTT 環境エネルギー研究所「ネットワークアブライアンスの雷害故障実態と落雷危険度マップ」より)

県央～北東部へは、飯能付近から宮代町付近・筑波山・笠間市付近に至る雷雲の同時発生がありました。

(気象庁「雷ナウキャスト」講習会資料より)

上記の落雷や竜巻の発生地域が、平地で上昇気流の起き易い地形であり、ここを渡りのコースにするのではないかと考えましたが、観察記録が少なく、まだ断定はできません。

### ● ハチクマとサシバの食性と旅立ちの時期

ハチクマよりサシバの方が早く旅立つ。それは食性の違いからくると思われます。

**サシバの食性：**早春～初夏には主に両生類や爬虫類などを、初夏～盛夏には昆虫類や小動物などを捕食。両生類、爬虫類、昆虫類などは気温が低くなると動きが鈍くなり、餌として確保し難くなるようです。

**ハチクマの食性：**餌はスズメバチ類の幼虫や蛹が主。渡り前にはジバチやアシナガバチも。他に両生類、爬虫類、昆虫類や小動物など。このように、ハチクマの渡りの時期がサシバより遅いというも、餌の確保が出来る事によるのかも知れません。

(参考：「タカの渡り全国集会 in 岐阜 2004 報告書」  
タカの渡り全国ネットワーク)

### ● 渡りに最適な気象条件は？

サシバの渡り開始は、餌を補給する中継地(例えば甲府～長野辺り)の最低気温が20℃に届く頃ではないか、と思っています。

私の描くタカの渡りのシナリオは、

1. 台風が太平洋沿岸を北上し列島に南から暖気が入り、
2. 日本海へ大陸から高気圧が張り出して北西から寒気が降りてきて、
3. 日本列島南に秋雨前線が発生、前線北側に渡りに適した追い風(東風)が吹き、
4. 関東地方に上昇気流が発生、富士山方面へ帆翔できる北東からの風が吹けば、最良と思っています。

### ● 旅立ちのスイッチ

テレビ画面の天気予報が関東甲信地方なら

ば、甲府か長野の最低気温にご注意を。

早ければ8月の半ば頃、渡りの気象条件に近い日が訪れます。サシバの渡り、はたしてスイッチが入るでしょうか、期待しています。

県内では8月の下旬ごろから10月の中旬ごろまで渡りが続くと思われます。

### ● 天覧山での観察

「天覧山・タカ渡り観察グループ」では、1983年からの観察記録を公開しています。

1983～2015年の33年間で、サシバが1日に渡った最大数は519羽(2004.9.28)。次いで439羽(1991.10.2)。平均すると約190羽です。

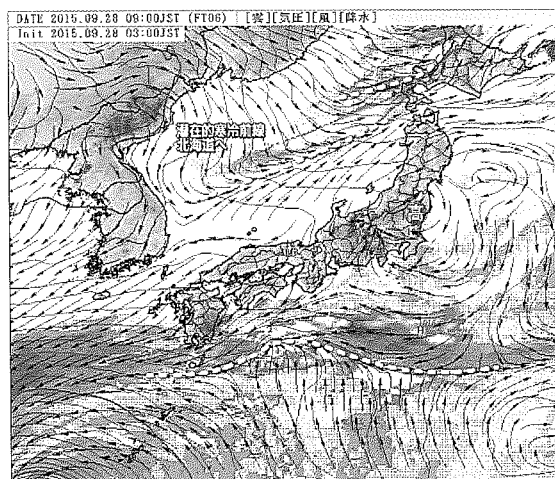
サシバが100羽以上渡った回数

9月22日	1
9月23日	2
9月24日	3
9月25日	0
9月26日	5
9月27日	4
9月28日	4
9月29日	3
9月30日	0
10月1日	3
10月2日	3
10月3日	1
10月4日	3
10月5日	1
合計	33

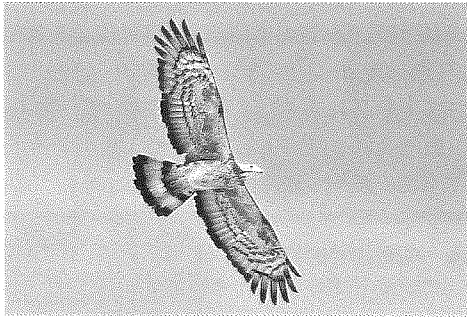
100羽以上の渡りをした回数は、33回(22年)あり、その内年2回飛んだ年は11年ありました。日にち別では、9.26が5回と最も多く、9.22～9.29の間にピークがあり、2回目のピークは10.1～10.5の間に来るようです(上表参照)。2015年は「渡り調査(9.27)」の翌日9.28に127羽が飛びました。

### ● 気象図

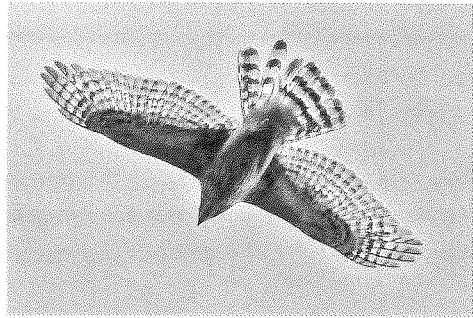
下図は2015.9.28 am9:00の気象図です。



(「気象予報士 Kasayan のお天気放談」より引用)



ハチクマ (2013. 6. 2 銀山平)



サシバ (2013. 9. 29 天覧山)

秋雨前線が列島の南に停滞しており、前線の北側では東風が吹いています。

前日の関東地方は曇りのち雨で、タカ類の渡りは足止めされています。

9. 28 朝から晴れた天覧山は、10 時～12 時に多くのタカが北側などから入り、南西方面へ渡ったと記録されています。

### ● 飛翔高度と速度

偏西風の影響の少ない高さで、晴れの日が高く、曇りの時は低く渡るそうです。

地上高約 120～300mを、ハチクマは 45 km/h 程、サシバは 30～40 km/h といわれています。

### ● 県内の観察地点

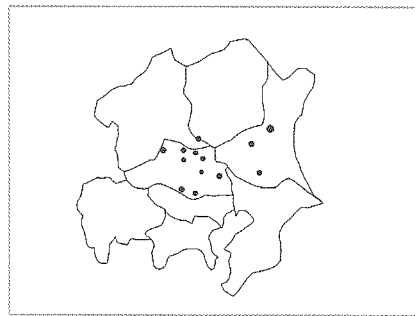
日本野鳥の会埼玉に観察情報が寄せられている主な地点は、飯能市天覧山、寄居町中間平、蓮田市黒浜沼周辺、川島町三ツ又沼ビオトープなどです。

近年、気象衛星やスーパーコンピュータの発達により、先々の風向きの予測も可能になりました。一時期は気圧配置図を頼りに渡りの日を予想していたものが、今では上空約 1,500m (850hPa) の風の配置が、気象庁 GSM モデルとして入手できる時代です。

皆様も「渡りの日」や「渡りのコース」を予想してみませんか。予想が的中した時は、空を見上げているだけで嬉しくなります。

「県央で落雷発生頻度が高い地域」をプロ

ットした地図(下図)が、渡り観察のヒントになれば幸いです。



### ● 謝辞

データ使用に当たり「天覧山・タカ渡り観察グループ」代表市川和男氏に、資料提供に便宜を図って戴いた樋口広芳東京大学名誉教授に深く感謝いたします。

(ハチクマとサシバの写真：筆者)

ルート解明のため、タカ類の渡りを観察された方は、当会ホームページの投稿フォームよりその情報をお寄せください。お待ちしております。

#### 紹介ページ

[http://www.wbsj-saitama.org/postmail/2016\\_sashiba.html](http://www.wbsj-saitama.org/postmail/2016_sashiba.html)

#### 投稿フォーム

[http://www.wbsj-saitama.org/postmail/form2016\\_sashiba.html](http://www.wbsj-saitama.org/postmail/form2016_sashiba.html)

また、ホームページの「お知らせ」にも案内を出す予定です。

# 2016年春 シギ・チドリ類調査報告

日本野鳥の会埼玉 研究部

日 時：2016年4月29日 9:40～11:40  
場 所：さいたま市 大久保農耕地  
天 候：晴れ

当日の気圧配置は冬によく見られる「西高東低」で、日差しはあるものの強い北風が吹いていました。そのような悪天候にもかかわらず、一般参加者2名を含む19名の協力が得られました。ありがとうございました。

今年はほとんどの田に水が入っており、田植えが終わっている田もありました。シギ・チドリ類を観察するには条件はよかったです。観察された種数、個体数は3種20羽で、これで3年連続してムナグロが確認されませんでした。

しかし、大久保農耕地を定期的に観察している会員によると、集合前にAs区で3羽のム

ナグロを確認したそうです。

表は春の調査結果のうち、最近の10年間をまとめたものです。それ以前の記録は「しらこぼと」2012年6月号(No.338)をご覧ください。

※タシギ属不明種は、種数に入れませんでした。(石井 智)



## 春のカウント結果 (大久保農耕地)

年	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
調査日	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29	4/29
天候	快晴	晴れ	快晴	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	曇り	晴れ	晴れ
1 ケリ					1					
2 ムナグロ	283	98	337	5	7	45	211			
3 コチドリ	6	3	7	4	3	9	11	10	5	6
4 セイタカシギ									1	
5 チュウジシギ					1					
6 タシギ	8	8	2	1		1	8	2		9
7 チュウシャクシギ	6	2	13		8		2	1	2	4
8 アオアシシギ	1									
9 タカアシシギ			4		1		1			
10 キアシシギ		3								
11 キョウジョシギ										
12 オジロトウネン							1			
13 タマシギ							2			
タシギ属不明種				1					2	1
合計	304	114	363	11	21	55	236	13	10	20



## 野鳥情報

**蓮田市西城沼公園周辺** ◇3月3日、モズ♂と♀が畑の木立にとまっていた。3月8日、屋敷林から飛び出したハト位のタカに、より小さめのタカが上空から急降下でアタック。2羽はその後、違う方向に飛び去った。ツミだったのだろうか？ 3月20日、久しぶりにコジュケイの囀りを聞いた。3月25日、シロハラが落ち葉を掻き分けて採餌。ホオジロの囀りをここで久しぶりに聞いた。屋敷林からタカの声が数回。探したが見つからず。3月28日、トビが絡み付いてきたカラスを後ろから執拗に追尾。トビもたまにはやるもんだ！ 4月9日、ヒヨドリ50羽土が北に向かって飛んだ。ここで今季初。その後、4月10日、4月18日に北に向かう50羽土の群れを確認。4月12日、オオタカ1羽が上空を旋回。下からさらに1羽が加わり2羽でしばらく旋回。先の1羽は東に、後からの1羽は北に流れた。4月21日、アカハラの囀りを聞いた。4月23日、センダイムシクイの囀りが屋敷林から聞こえた。ここで今季初（長嶋宏之）。

**さいたま市桜区白鵜** ◇3月14日、電建住宅調整池の片隅でコガモ♀2羽♀5羽。降りしきる雨の中、鳴き声も高らかに求愛行動を展開。3月29日、電建住宅調整池でコチドリ2羽（大塚純子）。

**熊谷市大麻生** ◇3月16日朝、ひろせ野鳥の森でピンズイ、ウグイス、シメ、シジュウカラ、エナガ、メジロ、イカル、モズ、ツグミ、ホオジロ、カシラダカ、ベニマシコ、カワラヒワ、セグロセキレイ、ハクセキレイ、コジュケイ、コゲラ、ガビチョウなど（大畑祐二）。

**北本市北本水辺プラザ公園** ◇3月16日午前9時半頃、アシ原にオオジュリン2羽+。その縁をバン2羽、クイナ1羽、ヒクイナ1羽が歩いていた。ヒクイナはここで越冬したものか？（榎本秀和）。

**加須市加須はなさき公園** ◇3月16日、ヒドリガモとアメリカヒドリの交雑種1羽、亜

種ダイサギ1羽、キセキレイ1羽、カケス3羽、シメ3羽、アオジ1羽、オオジュリン3羽、ウグイス囀り。他には、バン、オオバン、カワラヒワ、シジュウカラ、ツグミ、モズ、コゲラなど（長嶋宏之）。

**鴻巣市大間一丁目** ◇3月18日午前9時15分頃、洗濯物を干していた家内の声。「猛禽2羽がカラス2羽に追われてる！」。急いで2階に上がって双眼鏡で確認する。シルエット状にはしか見えなかったが、頭部の突出、翼の幅（翼開長ではない）、尾の形から2羽ともハチクマと判断した。快晴の空を、カラスをかわしながら北方向から南方向へ飛んで行った。もう渡りが始まったものと思われる（榎本秀和・みち子）。

**さいたま市岩槻区岩槻文化公園** ◇3月20日、コジュケイ、キジ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、コガモ、カイツブリ、カワウ、イソシギ、セグロカモメ、トビ、カワセミ、シジュウカラ、コゲラ、アオゲラ、モズ、ヒバリ、ウグイス、エナガ、メジロ、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、カワラヒワ、ホオジロ、アオジ、オオジュリンなど（大畑祐二）。◇4月1日、イカル20羽土の群れ。渡りの途中か。今期2度目（内田克二）。

**蓮田市馬込根ヶ谷戸公園** ◇3月23日午前6時、コガラ2羽、2006年11月、2012年12月以来、比較的珍しい（本多己秀）。

**さいたま市岩槻区馬込** ◇3月26日、トラスト7号地でエナガが3羽（本多己秀・久文子）。

**狭山市智光山公園** ◇3月27日、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、トモエガモ、コガモ、カワウ、アオサギ、オオタカ、カワセミ、コゲラ、モズ、カケス、ヤマガラ、シジュウカラ、ウグイス、エナガ、メジロ、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、シメ、イカル、ホオジロ、アオジ、ガビチョウなど（大畑祐二）。

**鴻巣市大間一丁目** ◇3月28日午前10時頃、ツバメが2羽飛んでいた。今季初認。鳴きながらチョウゲンボウをモビング（榎本秀和）。

**北本市北本自然観察公園** ◇3月29日、クイナ1羽、キジ子1羽、ガビチョウ2羽、カワセミ1羽、ウグイス囀り、シメ5～6羽の群れ、オオタカ1羽。他には、マガモ、コガモ、カルガモ、ツグミ、コゲラ、シジュウカラなど（長嶋宏之）。

**加須市浮野の里 N36. 1346 E139. 6259** ◇3月30日、コチョウゲンボウ子1羽が枝に止まっていて、眉斑がはっきり見えた。また腹部の橙褐色が印象に残った。トビ3羽が鳴きながら輪を描き、オオタカが悠然と旋回。15羽土のキジバトが一枚の田圃で採餌。キジ子がゆっくりと田圃を歩いて採餌。その他、カケス、シメ、モズなど（長嶋宏之）。

**桶川市若宮** ◇4月2日午後2時5分、桜の花が満開の中、自宅の南側「PTはなみずき歩道」を散策中、8羽以上のシメの群れが地面に降りて何かを啄んでいた。群れで渡りの準備をしていたのだろう。4月25日午前5時55分、新緑のすがすがしい早朝、ヒヨドリの群れ40羽＋が5階屋上すれすれに、おしゃべりをしながら南から北へ渡って行くのを自宅ベランダから見た。どこまで渡って行くのだろう（立岩恒久）。

**熊谷市屈戸** ◇4月6日、セブンイレブン大里屈戸店の向かいの田圃辺りでツバメチドリ（大畑祐二）。

**さいたま市中央区八王子5丁目** ◇4月11日朝、かやのき団地8号棟前庭でアオジ囀る。ここでは、ほぼ毎年囀りを聞くことができる。昼頃、エナガのペアが木から木へと移動し、通過。巣材を調達中か。1羽は白い羽毛をくわえていた。4月18日、庭でシロハラ1羽、「ツイー、ツイー」と繰り返す鳴く。昨年11月以降、幾度か声や姿を確認（大塚純子）。

**深谷市仙元山公園** ◇4月11日、ミゾゴイ1羽、初見だったので、何の鳥か不明だった。藪の中かから不動の姿勢でこちらを見ていた。絶滅危惧種と知り驚いた。4月18日にも同じ場所で確認できた（田島利夫）。

**川越市伊佐沼** ◇4月18日午前、沼のほとりの桜並木にコムクドリ子♀合わせて数羽の群れ。♀タイプのほうが多い。県内でこの

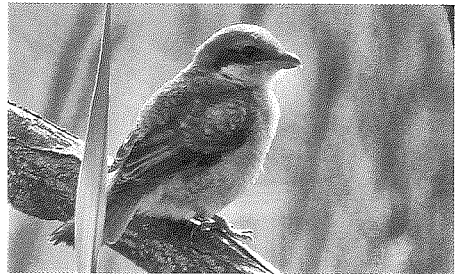
時季に出会うなんて、今まであったかな？（榎本秀和）。

**吉見町八丁湖公園** ◇4月18日昼、エナガの家族連れを見る。巣立ち雛4～5羽。親鳥とはだいぶ印象が違う（榎本秀和）。

**吉身町吉見総合運動公園** ◇4月18日昼、菜の花の咲き乱れる緑地の中にぽつんぽつんとチュウサギが10羽。今季初認。大きなカエルを次々に飲み込んでいる。カエルもけっこういるものだね（榎本秀和）。

**さいたま市見沼区丸ヶ崎** ◇4月23日午前8時、ムナグロ11羽、チュウサギ、ダイサギ、コチドリ、ツグミなど。4月25日午前6時30分～8時、ムナグロ合計62羽。ダイサギ、チュウサギ9羽、コチドリ1羽、ツグミ、カワラヒワ、カルガモ（本多己秀・久文子）。

**蓮田市黒浜 N35. 9898 E139. 6757** ◇4月24日、見慣れない鳥が前方30m土の地面から、近くの木立の枝に飛びあがった。写真を撮ってもらい確認したら、モズの巣立ち雛＝下写真（撮影：宮下茂樹）＝だった（長嶋宏之）。



**白岡市篠津** ◇4月26日、タシギ2羽、コサギ1羽、コチドリ3羽、カルガモ2羽を見ていたら、鳴きながらムナグロ6羽が飛来、採餌を始めた。数分後、いっせいに飛びあがったので、見るとチョウゲンボウがホバリング。少し待つと、皆帰ってきた。他にツグミ、ムクドリ、カワラヒワ、ハシボソガラス、スズメなど。5月5日、ムナグロ6羽、チュウサギ3羽、ダイサギ1羽（長嶋宏之）。

#### 表紙の写真

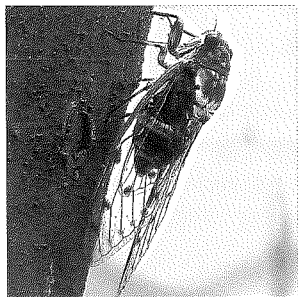
#### スズメ目カラス科カケス属ルリカケス

12年振りに訪れた奄美大島で、前回叶わなかった憧れのルリカケスの写真が撮れました。

小林ますみ（所沢市）



## 行事案内



ミンミンゼミ (編集部)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

参加費：中学生以下無料、会員 100 円、一般 200 円。

持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。間際に時刻表が変更される場合もあります。ご注意をお願いします。

### 群馬県板倉町・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：7月10日(日)

集合：午前8時15分、東武日光線板倉東洋大前駅。または午前8時35分、想い出橋駐車場。

交通：東武線 新越谷 7:22→春日部 7:35→南栗橋 7:52 着で、7:53 発新栃木行きに乗り換え板倉東洋大前 8:09 着。または JR 宇都宮線 大宮 7:03→栗橋 7:38 着後、東武線 7:57 発新栃木行きに乗り換え。

解散：午前11時30分ころ、谷中湖北ブロック展望塔付近の藤棚。

担当：佐野、植平、佐藤、進士、田邊、玉井、野口(修)、山田

見どころ：ササゴイやヨシゴイ、そしてコヨシキリ、オオセッカなどを探します。運が良ければサンカンゴイが飛ぶかも。

### 熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：7月10日(日)

集合：午前8時20分、秩父鉄道 大麻生駅前。

交通：秩父鉄道 熊谷 8:00 発、または寄居 7:39 発に乗車。

担当：茂木、新井、鶴飼、倉崎、田島、千島、飛田、中川、村上

ご注意：集合時刻が、今月から9月までは夏時間です。

### 『しらこぼと』袋づめの会

とき：7月16日(土) 午後3時～4時ころ

会場：会事務局 108 号室

### さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：7月17日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線 北浦和駅東口、集合後路線バスで現地へ(ご注意：案内人は8時過ぎに北浦和駅東口到着予定です)。または午前9時、浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：青木、赤堀、浅見(健)、浅見(徹)、楠見、小菅、小林(み)、柴野、新部、畠山、増田

見どころ：日陰の多い短めのコースを選び、身近な鳥たちの夏の生活を観察します。

### 狭山市・入間川定例探鳥会

期日：7月24日(日)

集合：午前9時、西武新宿線 狭山市駅西口。

交通：西武新宿線 本川越 8:42 発、所沢 8:39 発に乗車。

解散：正午ころ、稲荷山公園。

担当：長谷部、石光、久保田、鈴木(秀)、高草木、中村(祐)、藤掛、星、水谷、山口、山本

見どころ：鳥、植物、昆虫を少しずつ見えます。暑さによって、昨年同様、コースを短縮することも考えています。

### 長野県・乗鞍～上高地探鳥会(要予約)

期日：7月30日(土)～31日(日)

お申し込みは、定員に達しました。





## 行事報告

1月9～17日(土～日) カモ科カウント

ボランティア: 48名

相原修一、相原友江、浅見健一、浅見徹、新井巖、石井智、石川敏男、石塚敬二郎、伊藤芳晴、今村富士子、榎本秀和、海老原教子、大井智弘、大井はるえ、大坂幸男、大塚純子、工藤洋三、倉崎哲郎、小池一男、小荷田行男、小林茂、小林ますみ、小林みどり、駒崎政雄、佐久間博文、佐藤宏、佐野和宏、柴野耕一郎、鈴木秀治、田邊八州雄、千島康幸、手塚正義、中間清美、中村治、中村豊己、長嶋宏之、長野誠治、野口修、長谷部謙二、畠山孝、菱沼一充、菱沼洋子、藤掛保司、藤掛宮子、藤澤洋子、山部直喜、吉原早苗、吉原俊雄

(調査結果は6月号に掲載済)

1月23日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 12名

宇野澤晃、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、大塚純子、小林みどり、佐藤和宏、志村佐治、藤掛保司、三ツ矢正安、山口芳邦

1月24日(日) 蓮田市 黒浜沼

参加: 53名 天気: 晴

キジ マガモ カルガモ コガモ カイツブリ  
キジバト カワウ アオサギ オオバン タシギ  
トビ オオタカ カワセミ コゲラ チョウゲン  
ボウ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス  
シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ  
シロハラ アカハラ ツグミ ジョウビ  
タキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ  
タヒバリ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオ  
ジロ カシラダカ アオジ オオジュリン (38種)  
暖冬のためか冬鳥が非常に少なくて心配されたが、スタート直後からアオジ、カシラダカやオオジュリンが枯草の中に次々と現れ、さらに人気のベニマシコも何度も出現して楽しめた。上空の鳥もオオタカ、チョウゲンボウに加えて途中から急に強くなった北風の中、黒浜では珍しいトビを見て終了した。

(玉井正晴)

1月24日(日) 狭山市 入間川

参加: 27名 天気: 晴

マガモ カルガモ コガモ カイツブリ キジバ  
ト カワウ アオサギ ダイサギ コサギ クイ  
ナ バン オオバン ヒメアマツバメ イカルチ  
ドリ タシギ ミサゴ トビ カワセミ コゲラ  
モズ ハシボソガラス ハシブトガラス ヤマガ  
ラ シジュウカラ ヒヨドリ メジロ ムクドリ  
シロハラ ツグミ スズメ ハクセキレイ セグ  
ロセキレイ シメ ホオジロ カシラダカ アオ  
ジ (36種) (番外: ドバト) スタート地点の河原  
に下りると、上空にミサゴ。ミサゴは前回の11月  
に初めて記録された。オオバンが、ここで見られ  
るようになって何年たつだろうか。今では冬の水  
面にカモより多く浮いている。バンも姿を現し、  
すぐ近くにクイナまで出てきた。最初クイナはア  
シの中から出たり入ったり。そのうち姿を見せた  
まま動かなくなった。嘴の赤以外は、茶、黒、グ  
レーと地味なようだが、陽を浴びた姿はとてもき  
れいだった。

(長谷部謙二)

1月26日(火) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加: 37名 天気: 快晴

コジュケイ オカヨシガモ ヒドリガモ マガモ  
カルガモ ハシビロガモ オナガガモ トモエガ  
モ コガモ キンクロハジロ カイツブリ キジ  
バト カワウ トビ ノスリ カワセミ コゲラ  
アオゲラ モズ カケス ハシブトガラス キク  
イタダキ ヤマガラ ヒガラ シジュウカラ ヒ  
ヨドリ ウグイス エナガ メジロ シロハラ  
ツグミ ルリビタキ ジョウビタキ キセキレイ  
ハクセキレイ セグロセキレイ アトリ ベニマ  
シコ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ (42  
種) (番外: ガビチョウ) 我々の目の前をエナガ  
の群れが次々と通る。双眼鏡は要らない。ルリビ  
タキもそこかしこに出てくる。何という贅沢! 残  
雪をバックに赤いベニマシコもゆっくり。少し遠  
いが、カワセミ、シロハラ。カラの混群の中には  
この冬定番のキクイタダキも。山田大沼のカモは  
少なかったが、その中にトモエガモの姿を発見。  
大雪のあとカワウの姿が極端に減ってしまってい  
る。平日の公園をのんびり楽しんだ。(中村豊己)

1月28日(木) 羽生市 羽生水郷公園

参加: 46名 天気: 晴

ヨシガモ マガモ カルガモ オナガガモ トモエガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ  
アオサギ ダイサギ コサギ バン オオバン  
トビ オオタカ ノスリ カワセミ モズ ハシ  
ボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒ  
バリ ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ  
シロハラ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハク  
セキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ベニマ  
シコ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ オ  
オジュリン (40種) (番外:ドバト) 風もなく穏  
やかな日和。アシ原のあちこちでオオジュリンが  
現れ、アオジ、ジョウビタキ、シメなどの冬鳥た  
ちの姿も。三田ヶ谷池では2002年から始まったこ  
こでの探鳥会初確認のトモエガモ (♂4, ♀2) の  
姿に参加者大盛り上がり。空で囀るヒバリに  
来る春を感じ、上空に現れた猛禽を皆でワイワイと  
識別。ベニマシコ♂が見やすい場所に現れて大サー  
ビス。平日の静かな公園を楽しんだ。(相原修一)

2月4日(木) 戸田市 彩湖

参加: 45名 天気: 晴時々曇

キジ ヨシガモ マガモ カルガモ ハシビロガ  
モ コガモ オオホシハジロ ホシハジロ キン  
クロハジロ ホオジロガモ ミコアイサ カイツ  
ブリ カンムリカイツブリ ハジロカイツブリ  
キジバト カワウ アオサギ オオバン ユリカ  
モメ セグロカモメ ノスリ カワセミ コゲラ  
モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュ  
ウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ  
ムクドリ シロハラ ツグミ ジョウビタキ ス  
ズメ ハクセキレイ カワラヒワ ベニマシコ  
シメ ホオジロ アオジ オオジュリン (43種)  
(番外:ドバト) “珍客”に会いに来たのか、  
平日にしては参加者が多い。シジュウカラの朗ら  
かなさえずり、ほとんど夏羽のカンムリカイツ  
ブリ。ベニマシコは冬鳥だけど、赤味の濃い雄の姿  
は、さながら早咲きの花。さて、いよいよ貯水池  
機場に到着。ホシハジロの群れの中に珍客がいる  
はず。熱のこもった視線が、望遠鏡越しに湖面を  
走りまわる……いた、オオホシハジロの雌! しか  
し、すぐに嘴を引っ込める。納得できた方は少数  
だったかもしれない。(小林みどり)

2月6日(土) 嵐山町 菅谷館都幾川

参加: 39名 天気: 曇後晴

コジュケイ カイツブリ キジバト カワウ ア  
オサギ ダイサギ イカルチドリ クサシギ ト  
ビ ハイタカ ノスリ コゲラ モズ ハシボソ  
ガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ  
ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ  
トラツグミ シロハラ ツグミ ジョウビタキ  
スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキ  
レイ ビンズイ アトリ カワラヒワ ウソ シ  
メ イカル ホオジロ カシラダカ アオジ (39  
種) (番外:ドバト、ガビチョウ) 集合場所でシ  
メを見て出発。雑木林を抜けた草地上、トラツグ  
ミが飛んだが、直ぐ下りてくれたので全員でじっ  
くり見られた。蝶の里の草地に出ると、カワラヒ  
ワが地面から飛んで木にとまったが、アトリも混  
ざっていた。ウソの声をたどると梢にとまってい  
た。ホタルの里でカシラダカ、ジョウビタキ♀、  
都幾川に出ると、セキレイ類4種、イカルチドリ、  
クサシギが出てくれた。ノスリ、ハイタカが飛び、  
田んぼではヒバリがさえずっていた。イカル50羽  
以上の群れが木にとまっていた。トラツグミ、ア  
トリ、ウソが探鳥会に会わせて入ってくれ、盛り  
上がった。(千島康幸)

2月6日(土) 狭山市 智光山公園

参加: 41名 天気: 曇後晴

オカヨシガモ ヒドリガモ マガモ カルガモ  
オナガガモ トモエガモ コガモ カイツブリ  
キジバト カワウ アオサギ カワセミ コゲラ  
アオゲラ ハヤブサ モズ カケス オナガ ハ  
シブトガラス キクイタダキ ヤマガラ シジュ  
ウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ  
ムクドリ シロハラ ツグミ ジョウビタキ ス  
ズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキ  
レイ カワラヒワ シメ イカル アオジ (38種)  
(番外:ドバト) ほぼ毎回スターが登場するが、  
今回はトモエガモ。カモの中にオスが1羽、単身  
赴任!? 最初は休憩モードだったが、やがて悠々  
と泳ぎまわって歌舞伎役者のくまどりを思わせる  
独特の面をたっぷり披露してくれた。役者やのお  
ー! その他、シジュウカラ、ヤマガラ、エナガ、  
コゲラの混群や、キクイタダキ、アオゲラ、カワ  
セミ等を確認。最後にイカルが出現。冒頭の公園  
長さんのお話のとおり、智光山公園の豊かな環境  
は健在だった。「見るからに役者顔なりトモエガモ  
見得は切らずも人眼を引いて」(石光 章)

2月7日(日) 北本市 石戸宿

参加: 57名 天気: 快晴

キジ マガモ コガモ カイツブリ キジバト  
カワウ クイナ バン ヒメアマツバメ ノスリ  
カワセミ コゲラ モズ カケス ハシブトガラ  
ス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ  
メジロ ムクドリ シロハラ アカハラ ツグミ  
ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセ  
キレイ アトリ ベニマシコ シメ ホオジロ  
カシラダカ アオジ (34種) (番外: ドバト、ガビ  
チョウ) 朝起きて窓を開けたら屋根は5cm位の雪。  
道路にはなし。これは鳥が沢山出るぞ。朝の挨拶  
もハイテンション。早速、入口の橋でジョウビタ  
キ。でも、その後が続かない。それでも、草地の  
露出した箇所採餌中の多数のシジュウカラや湿  
地では採餌中のカシラダカの群れ。河川敷ではヒ  
メアマツバメの群れとノスリの飛翔。桜土手から  
見下ろした湿地では、クイナが一心不乱に採餌中。  
北里の森沿いの湿地でシロハラ。八つ橋を渡った  
正面の湿地にアカハラ、セグロセキレイ。鳥合わ  
せ時には、朝の挨拶で説明したようにはならな  
かった事をお詫びした。でも、ヒメアマツバメ、ノ  
スリ、カワセミ、クイナ、シロハラ、アカハラは  
ほとんどの人がじっくり観察できて満足いただけ  
たのでは。(吉原俊雄)

2月7日(日) さいたま市 民家園周辺

参加: 67名 天気: 晴

コハクチョウ オオハクチョウ オカヨシガモ  
ヒドリガモ マガモ カルガモ ハシビロガモ  
オナガガモ コガモ ホシハジロ キンクロハジ  
ロ ミコアイサ カイツブリ カンムリカイツ  
ブリ キジバト カワウ ゴイサギ アオサギ  
ダイサギ コサギ オオバン イソシギ ユリカモ  
メ セグロカモメ ノスリ カワセミ アリスイ  
チョウゲンボウ ハヤブサ モズ ハシボソガラ  
ス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ  
ウグイス メジロ ムクドリ アカハラ ツグミ  
ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセ  
キレイ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジ  
ロ カシラダカ アオジ オオジュリン (50種)  
(番外: ドバト) 冬の芝川第一調節池の魅力は  
カモ類、猛禽類の種類の多さに、ハクチョウ類が  
越冬すること。まさに寒風吹きさす探鳥会にな  
ったがカモ、ハクチョウ類は12種を観察。強風の

ためか猛禽類は2種だけだったが、たくさんの参  
加者のおかげで鳥合わせでは50種を記録するこ  
とができた。寒い中お疲れ様でした。(手塚正義)

2月11日(木、祝) さいたま市 大宮市民の森

参加: 79名 天気: 晴

カルガモ コガモ カイツブリ キジバト カ  
ワウ アオサギ クイナ バン タシギ イソシギ  
カワセミ コゲラ モズ ハシボソガラス ハシ  
ブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス  
エナガ メジロ ムクドリ シロハラ アカハラ  
ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ  
セグロセキレイ カワラヒワ シメ ホオジロ  
カシラダカ アオジ オオジュリン (34種) (番  
外: ドバト) 風も無くほかほか陽気の中の探鳥  
会。陽気はいいが、鳥が出ない。下見の時には  
いた鳥達は何処へ? しかし参加人数も多く、たく  
さんの目でみなさんが探してくれ、終わってみれば、  
クイナやタシギを含め34種の鳥たちと出合せ、ほ  
っとした。冬の場合、私の経験だと晴れた日より  
曇りの日に鳥が多いと思うのだが、気のせいだろ  
うか?(青木正俊)

2月13日(土) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加: 42名 天気: 晴

コジュケイ オカヨシガモ ヒドリガモ マガモ  
カルガモ オナガガモ コガモ ホシハジロ カ  
イツブリ キジバト カワウ アオサギ イカル  
チドリ オオタカ カワセミ コゲラ アオゲラ  
ハシブトガラス キクイタダキ ヤマガラ シ  
ジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ  
シロハラ ツグミ ルリビタキ ビンズイ ホオ  
ジロ カシラダカ アオジ (32種) いつになく  
野鳥の声が少なかったが、それでもすぐにシロハ  
ラ、エナガ、ヤマガラ、メジロなどが出来て  
くれた。その後は再び静かな道を歩いた。今まで  
あまり実績の無かった雑木林で、ルリビタキが  
我々の目の前に寄ってきた。その頭上にはキク  
イタダキも姿を見せてくれた。そのため、突如  
として上と下とを交互に観察する忙しさにな  
った。山田大沼では、あまり見かけないイカル  
チドリが1羽じっとしていた。大雪のあと激  
減していたカワウは少しだけ数を回復して  
いた。どうしたことだろう、ガビチョウの  
声の聞こえない探鳥会になった。

(中村豊己)



● **見沼たんぼ見どころガイド 2016**

さいたま市都市局都市計画部みどり推進課見沼田圃政策推進室発行の 2015 年版用に当会が執筆した『見沼たんぼの野鳥たち』が、そのままの内容で再び 2016 年版に掲載されました。さいたま市内の区役所などで入手できます。ご活用ください。



● 『野鳥』誌に「なつみずたんぼ」報告

本年 6 月号特集「なつみずたんぼでシギ・チドリを守ろう」の一環として、当会研究部長小林みどりがまとめた「埼玉県内のなつみずたんぼにおけるシギ・チドリ類の飛来状況」が掲載されました。

● **全国鳥類繁殖分布調査に協力**

1970 年代と 1990 年代に環境省の全国鳥類繁殖分布調査が行われ、全国的な鳥の分布とその変化が明らかになり、日本の生物多様性の評価や、レッドリストの改訂に役立てられました。

3 回目の全国調査が必要な 2010 年代に入っていますが、予算的な目処がたっていません。そこで、NGO と環境省、大学の研究者などとの共同事業として調査を実現させたいと、認定 NPO 法人バードリサーチ、(公財)日本野鳥の会、(公財)山階鳥類研究所、環境省生物多様性センターなどが主催団体、当会などが調査協力団体となり、今年から現地調査などが開始されます。

県内では、8 ヶ所で調査を実施する予定で、担当者を依頼するなどの作業を研究部で進めています。

現地調査だけでなく、様々な個人の協力も求められています。詳しくは、「全国鳥類分布調査」で検索してご覧ください。「参加者募集」のページもあります。

● **会員数は**

6 月 1 日現在 1,746 人。

**活動と予定**

● **5 月の活動**

5 月 14 日(土) 『しらこぼと』6 月号校正(海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、小林みどり、佐久間博文、志村佐治、藤掛保司、長嶋宏之)。

5 月 15 日(日) 役員会(司会:浅見徹、各部の報告、総会準備、その他)。

5 月 25 日(水) さいたま市緑区さぎ山記念館で開催された見沼たんぼ・さいたま市&市民ネットワーク平成 28 年度総会に出席(藤掛保司)。

● **7 月の予定**

7 月 2 日(土) 編集部会。普及部会。

7 月 9 日(土) 8 月号校正(午後 4 時から)。

7 月 16 日(土) 袋づめの会(午後 3 時から)。

7 月 17 日(日) 役員会(午後 4 時から)。

**編集後記**

30 代の頃にヤブサメの鳴き声を間近で聞いたことがあった。体の大きさからは考えられないほど力強く、すさまじい迫力だった。ところが、最近では小さな声で虫が鳴いているように聞こえる。鳴き声が 8000Hz 以上の超高音という彼らの存在に、気付いてやれない日がいずれは来るのだろうか。(森本國夫)

しらこぼと 2016 年 7 月号(第 387 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)  
 発行人 海老原美夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉 (〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460  
 郵便振替 00190-3-121130 http://www.wbsj-saitama.org 事務局 office@wbsj-saitama.org  
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 編集部への野鳥情報 toridayori@hotmail.com  
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田 3 丁目 9 番 23 号 丸和ビル  
 (公財)日本野鳥の会会員室 TEL 03-5436-2630 FAX 03-5436-2635 gyomu@wbsj.org  
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社